

67期17班新聞

一人一人を安全に運ぶのが

一日の目標

私たちは8月17日に近鉄四日市駅に取材に向かった。

今回インタビューを受けてくださったのは近鉄四日市駅の駅長である山上さんと副駅長である藤原さんだ。

私たちは駅員の仕事を通して心がけていること、SDGsへの取り組みについて取材に伺った。近鉄は、沢山の事業を執り行っている近鉄グループホールディングスの事業会社で、

その中の運輸事業である。普段私たちが利用している近鉄のコンセプトは鉄道事業を中心に、利用者の日常を誠実に支え、くらしの安心や豊かさを提供することだそう。藤原さんは「一人一人を安全に運ぶのが一日の目標です。」とおっしゃった。

観光業での取り組み

近鉄は鉄道だけでなく、「都市」の発展についてもたくさん取り組みをしている。

最近はや家族化が進んでいるため経済格差が激しくなってきた。また車社会にもなり、コロナ禍のせいでリモートで仕事をする人が大幅に増えた。

その影響から鉄道利用客が減ってしまった。駅周辺の商店街も衰退していった。

この問題に対して、「まわりやんせ」や「青の交響曲（シンフォニー）」などの観光と鉄道の利用をセットにして利用客を増やす取り組みを行っている。

SDGsの八番目である「働きがいも経済成長も」にも関連していき、利便性が向上している。



テクノロジーを活用して

最近インターネットを使って特急券のほか、デジタルきっぷも購入できる。

乗車する際、改札の切符を取り忘れるケースが多いため、テクノロジーをうまく活用しているそう。

この取り組みは

SDGsの九番目である

「産業と技術革新の基盤をつくる」

と関わっており、近鉄総合案内センターのお客様集め対応なども受け付けている。



地域活性化に向けて

SDGsの十一番目である「住み続けられるまちづくりを」への取り組みもある。

近鉄では沿線価値向上の取り組みをしている。最近駅周辺の商店街や商業施設などが衰退している。そのような中だからこそ地域で丸となって街を活性化させている。駅構内で駅員が利用者をサポートしているのを見たことはないだろうか。近鉄では降車駅で駅員が待っていたり、音や点字ブロックで転倒を防いでいる。このように助けを必要としている利用者に対して手厚いサポートがされている。



しかし、全ての人に補助がつくわけには無い。だから国、県、市、近鉄で協力して全力でサポートをしている。このように近鉄はさまざまな工夫を重ねていることがわかる。今後はさらに感謝して利用し続けていきたい。

日常を快適なものに



近鉄四日市駅の副駅長である藤原さん

四日市駅 駅員の24時間

